

将来の大地震に備えて

＜主催＞ 日本建築学会 構造委員会 振動運営委員会 強震観測小委員会

強震観測小委員会および傘下の強震観測成果普及展開ワーキンググループでは、過去5回の「強震データの活用に関するシンポジウム」を開催してきた。これらのシンポジウムでは、強震観測の普及展開を目指して、開催時点における様々な課題の分析、実状紹介、将来への提言などを通じて議論を重ねてきた。

東日本大震災、熊本地震、さらには大阪府北部の地震など、近年頻発している被害地震を契機として、強震観測を取り巻く環境は大きく変化している。前回から10年ぶりの開催となる第6回シンポジウムにおいては、これらの地震における強震観測の成果と課題を改めて確認し、将来の大地震に際して強震観測が果たすべき役割について議論を深める機会となることを期待したい。

日時 : 2018年12月21日(金) 13:00～17:10

会場 : 建築会館ホール (東京都港区芝 5-26-20)

【プログラム】 *各講演の題目等は変更になる場合があります。

司会: 植竹富一 (東京電力ホールディングス)
赤澤隆士 (地域地盤環境研究所)

-
- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1. 主旨説明 13:00～13:10 | : 中村 充 (大林組/小委員会主査) |
| 2. 話題提供 13:10～16:15 | |
| 2-1 強震観測の歴史と現状 | : 飛田 潤 (名古屋大学) |
| 2-2 地盤強震観測における成果と課題 | : 高井伸雄 (北海道大学) |
| 2-3 建物強震観測における成果と課題 | : 大野 晋 (東北大学) |
| 2-4 建物管理者の視点による強震観測の活用と課題 | : 田沼毅彦 (都市再生機構) |
| 2-5 建物設計者の視点による強震観測の活用と課題 | : 今枝裕貴 (日建設計) |
| ＜休憩 15:15～15:25＞ | |
| 2-6 強震観測の応用としての「モニタリング」 | : 杉村義文 (NTTファシリティーズ) |
| 2-7 これからの強震観測 | : 小阪宏之 (戸田建設) |
| 3. 総合討論 16:15～17:10 | 司会: 三浦弘之 (広島大学) |
-

記録: 重藤迪子 (九州大学)

定員 : 150名 (申込み先着順)

参加費 : 会員5,000円、会員外7,000円、学生3,000円 *資料代3,000円含む

申込方法 : WEB事前申込み ▶<https://www.aij.or.jp/event/detail.html?productId=615374>

問合せ : 事務局事業グループ 伏見 Tel.03-3456-2057